

## 第4回四日市市子ども・子育て会議 議事概要

日時：令和2年2月4日（火）

午後6時～午後8時

場所：市総合会館7階 第3研修室

### ①令和2年度に向けた利用定員の拡充について

事務局より資料1について説明。

#### ○質疑応答

##### 【 会長 】

今の説明の中でご意見等はいかがか。

##### 【 委員 】

1点目に、第3ブロック、内部ハートピア保育園の20人の定員拡充について、対象年齢は0～2歳児なのか確認させてほしい。

2点目は、第1ブロック、第2ブロックでの新設について、本来ならば第1ブロックに2園、第2ブロックに1園の設置ではないかと思うが、逆転現象が起こっている理由をご説明いただきたい。

##### 【 事務局 】

1点目の内部ハートピア保育園については、低年齢児の定員増によって本市の待機児童対策を図ってまいりたい。

2点目に、地域型保育事業所については、第1ブロックも第2ブロックも保育提供枠が足りない状況である。そういう中で募集を行った結果、申し上げた施設を認可することとなった。

##### 【 委員 】

保育所の給食費について、公立が3,700円で、私立が4,500円と格差が生じているが、その差額の800円を去年の10月に遡って補助していただくことになった件について感謝申し上げる。将来的には、給食費の無償化もお願いしたい。

私立保育園の現状を話させていただきたい。平成27年度より5年間の子ども・子育て支援新制度が定められ、ニッポン一億総活躍プランや子育て安心プランの策定、消費税増税があり、令和元年度には保育無償化も始まった。待機児童が増えたと思っており、私の園も入園希望者がたくさんいるが、保育士が不足しているため

入園していただけないのが現状である。私の園では、必要な保育士2人が不足しているため、令和2年度は一時保育を休止する予定である。また、0歳児は子ども3人に対して保育士1人という設置基準であるため、例えば子どもを6人減らすことで、職員が2人いなくなる、というようなやり方で対応している園もある。しかし、定員を下げるのになかなか許可が下りない。こういった保育士不足が深刻な中でまだ新しい保育所を建てていくのだろうか。

#### 【事務局】

市としては待機児童がまだ生じている現状から、来年度において保育提供枠を増やしていきたい。そんな中、保育士不足については、向こう10年の新総合計画においても、保育士の人材確保を軸にして、各施策を考えていく方針を立てている。例えば、来年度については、少しでも処遇改善が図れるよう予算上程を考えており、そういうことを積み重ねながら、私立保育園と共に就学前教育・保育の充実を図ってまいりたい。

#### 【委員】

大事なお子さんをお預かりするので、私たちも毎日どうやったらいいかと話し合っているが、現場は厳しいのでよろしくお願ひしたい。

#### 【委員】

今の話を聞いて不安になった。私立保育園は定員を削ってでも質を担保したいというように聞こえ、それに対し、市は地域型保育事業所を増やし、保育提供枠を増やしたいというように受け取った。地域型保育事業所が増えて、トラブルの声も聞くこともある。現場を見に行くと、フォローや質に関する監査といったものを実施していただきたいと思うがいかがか。

#### 【事務局】

地域型保育事業所の保育指導等に関しては、令和元年度は保育幼稚園課の指導係が17施設を巡回をして、保育の面や運営面について指導をさせてもらっている。

#### 【委員】

以前は定員に対して児童数が多かった。やはり定員に近い園児数で地域型保育事業所もやっていかないと、充実した保育はできないだろうということからすると、かなり定員に近い数値で抑えていただいているのかなと思う。中身は見られないので何とも言えないが、それも質にはつながるので、努力されているのかなと思う。

【 事務局 】

この子ども・子育て会議においても、定員に対する利用児童数がかけ離れているのではないかとの指摘を受けたこともある。今後も設置者と話をしながら改善に努めてまいりたいと考えている。

【 委員 】

努力していただいていることは私も分かっている。保育指導の先生はよく来ていただくが、皆さんにも一度、現場を見ていただきたい。

【 事務局 】

何とか時間を見つけて伺いたい。

【 会長 】

それでは次の項目に進みたい。

第2期四日市市子ども・子育て支援事業計画（素案）にかかるパブリックコメントについて、1か月かけて市民の方から意見を伺うということを実施していただいた。その結果を報告いただく。

②第2期四日市市子ども・子育て支援事業計画（素案）にかかるパブリックコメントの実施結果について

事務局より資料2について説明。

【 会長 】

説明があったように、意見が1件あったが、特に事業計画そのものに影響するような内容ではなかったということで、この件について特に修正する必要はないだろうと考えている。

【 事務局 】

今回のパブリックコメントで意見が出された場合は、市民のご意見に対する市の対応方針をこの場でお示しし、それに対して本日の会議で委員の皆様からご意見を伺い、その上で必要に応じて計画素案の修正作業を進めたいと考えていたが、今回ご指摘にあたるようなご意見をいただかなかった。したがって、素案の修正という形はとらず、これから三重県との事前協議を経て、時点修正的な最終調整を行った上で第2期計画を策定してまいりたいと考えている。

○質疑応答

(特になし)

【 会長 】

それでは3. その他の四日市市総合計画。2020年度から2029年度までの計画について説明いただきたい。

四日市市総合計画について

事務局より参考資料について説明。

○質疑応答

【 会長 】

10年間の計画というスパンで市の総合計画が述べられており、この中に子育てや子どもに対する取り組みも盛り込まれているということである。

これを読まれて、いろいろご意見はあるかと思うが、市だけでできるものではない。国がもっと支援をしていく体制を取っていかないと、かなり負担が大きいのではないか。

また、市の行政も含めて、地方自治というのはやはり市民や街の人たちの力がないと進まない。福祉というと、してもらおうという意識が強いが、自分たちで市や街を良くしていくということから、スタートしていくことが大事だと私は思う。

【 委員 】

きめ細かに計画を立てられていると思った。しかしながら、先ほどお話しいただいたように、現実の現場で保育士さんが足りず、保育が回らないというギャップを感じている。すぐに対策を、といっても難しいと思うが、資料の11頁に書いてある「オール四日市で取り組む」、これが非常に重要なと思う。私の所属は企業だが、私たちも同じようなことを考えてやっている。自分たちだけでやれることには限界があるので、いろいろなところから支援をいただき、ネットワークを作ってやりくりをしている。自分のところで保育士さんを直接雇ったりするが、足りないところがあれば、例えば応援に出すといったこともできないことはないのかなと思うし、逆に私たちの託児所のほうで保育士さんが足りないことがあったときは、派遣会社から期限を切って借りるなど、何とかやりくりするしかないのかなと思っている。

10年というのは非常に長いスパンだが、現場は毎日の戦いだと思うので、そういう仕組みによって皆さんで協力して回るようになればいいと強く思う。

#### 【 委員 】

昨年、タウンミーティングがあり、その中で総合計画の話をしていただき、新聞等にも載っていたので、どういうことになるのかなと思って期待していた。詳細を見せていただいたが、「子育てするなら四日市+（プラス）」として非常に多くの項目が書いてある。これらが同時スタートで行くのだとすると、行政も市民も一緒に動かなければならず、一つずつクリアしながら、動いていけるのかな、と思った。先ほどの話の中で、行政が現場を見ていないというものがあつたが、行政も市民と一緒にやっっていこうという気持ちがあるとは言えるものの、実際、動く段階になってどうなるのかなという辺りが一番不安である。

プロジェクト01のNo. 4で、「幼少期から体を動かす習慣づくり」とあるが、例えば、子どもでも運動のできる子、できない子も出てくるだろう。できない子は無理矢理やらせるのか、という形になってしまう。無理矢理でなく自然の中で、となると、生まれてすぐからという形になるかと思うが、生まれてすぐに行うには、それこそ保育士が足りない。あまりにも膨大な、大きすぎる総合計画を出してしまったのではないかという懸念がある。これから市民に説明していくと思うが、きめ細かに、一つずつ時間をかけて説明していただく必要もあるのではないかという印象を受けた。

#### 【 事務局 】

現場に行っていないというお話が出たが、保育幼稚園課もチームで仕事をしており、その都度の報告は受け、対応させていただいている。ただ、実際に現場で顔が見られないという点については素直に受け取らせていただきたい。

また、総合計画のボリュームが大きすぎる、という指摘については、就学前教育・保育の現場としては、それほど課題があつて、施策として打っていきたいところであり、市民の方々の、議会での議論を経て、ここに挙げさせていただいたところ。この計画は10か年であり、実施に当たっては推進計画ということで期間を区切った中で、再構築も含めながら、大きな方針としてはこれを基に進めていく。

体を動かす習慣づくりについて、就学前教育・保育においては、遊びを中心に日々の保育に取り組んでいる。スポーツ種目という観点ではなく、遊びを通して体を動かすことを楽しむ中で体力、運動能力の基礎につながっていくことを計画している。

#### 【 委員 】

高齢者福祉の分野では、年度末になって詰め込むように市から制度説明がされる

が、子ども分野はまだ2月のこの段階でお話が聞けるので、少し早いかなと思う。

四日市市はいろいろな取り組みをしており、制度や仕組みもさまざまかと思うが、今までやってきたことでも、知らないという方はまだ地域にたくさんいる。こういう場に出ているので、いろいろな資源があることは知っているが、この間も、四日市市PTA連絡協議会の関係で役員と話したが、まだ幼稚園に通われているお母さんも中にはおり、夏休み中に子どもを見てもらえるところがなく、1か月パート勤務を休むという話があった。これで子育てと仕事の両立ができていいのかという疑問がある。プロジェクト02のNo. 2で、「いつでも誰でも訪れられる活動・交流の場づくり」とあるが、例えば水沢のような地区からは橋北の施設は遠い。そういったところからも、仕組みや制度ができていても、実際に使われているのだろうかと思う。スタートしてからでも遅くはないので、いろいろな所に出向き、一人でも多くにこういう制度があります、相談をしてもらえばいくらでもこの支援の仕組みを説明させてもらいます、という取り組みが、まだ地域には届いてないのかなと感じることがあった。

#### 【 事務局 】

総合計画の説明がこの時期にあることについて早い、遅いというのがあった。この計画は11月定例会議会の議案として、12月の終わりに議決いただいたものであり、それまではなかなか申し上げることができないということがあって、だからこども未来部が早いとか、あるいは健康福祉部が遅いということではなく、今の時期しか説明ができないという状況である。

また、こういったことの周知というのが大事ではないかという意見をいただいた。その点はまさにその通りだと思う。私たちもいろんなことをやっているが、なかなか周知されていない。特に、必要とされる方が知らないということにジレンマを感じている。毎月2回発行している広報を読んでいただいていたら、ある程度は分かるが、場合によっては必要とする方が広報を見ていない。インターネットはどうだろうか、CTY-FMはどうだろうか、いろんなところでやってはいるが、なかなか必要なところには周知できない。これは子ども・子育て政策に限らず、市役所全体の課題ではあるかと思う。逆に我々からお願いをしたいのは、そういう方がみえたら、「1回どこの部署でもいいから市役所に電話してみたら」ということを皆さま方に言っていただきたい。市でもできないことはあるが、何らかできることもあるかも分からないので、ぜひ皆さま方にはそういった人がみえれば、一声かけていただくことにご協力をお願いしたい。

#### 【 委員 】

今回、横断的にプロジェクトを組んでいるということをお伺いした。現在、これ

から先も、いろいろな人がたくさんいて、これまですごくシンプルだったものが複雑になっていく社会だなと思っている。以前は一つのテレビでよかったものがどんどん違う形のものが増えていくように、人々が求めるものが変わってきて、求める人材も、個性が光る人が良いと言われると、こういうプロジェクトもいろいろ出てくるのかなと思った。その中で取り組みをたくさん出せば出すほど、人も足りない、お金も要るようになったときに、質を担保するのが難しくなるのでは、というのが、他の委員の方から出た意見かと思う。

そんな中で、私は一人の母親としても感じているのが、自分の子どもをしっかり見ていこうと考えているし、自分の子どもだけを見ていても発見できないことが、周りの子どもたちを見ることで発見できることもあると思う。そういう意味では、地域の方をどれだけ巻き込んでいけるのかということも大事にしていきたいのと、やはり現場を見て、それぞれで感じ取っていただけると大変ありがたいと思う。

## 【委員】

教育現場のほうからお話しさせていただく。まず、プロジェクト01の「四日市の新教育プログラム」、つまり、これからの社会に対して生きる力を付けていくということで、どの学校も目指していくというのが根底にある。

次の頁の「先端技術に対応した教育現場のICT化」では、先般、教育長からも、これからはノートがタブレットになっていくだろうというような言葉もあったが、現に各学校に40台ほどタブレットが入っていて、実際に子どもたちも使い始めている。子どもたちは操作が早く、学びが生き生きしてくるというのが良い効果かなと思っている。ただ、職員もこれに対応していくべく、講師の方に来ていただいて研修するなど、様々な手を打っていきながら、少しでも先生たちが授業の中で使えるように学んでいるところ。授業で使っていこうという取り組みがすでになさっていて、そのうち、1人1台になっていくのかなと思っている。

一方で、No. 6の「インターネットの時代における、メディアリテラシーの養成を通じた人権教育の推進」に関して、インターネットを通じたトラブルが小学校でも既に起こっている。なかなか複雑で、情報が一度流れてしまうと回収できないという危険性が、子どもたちにはなかなか分からないというか、知らされていないので、この辺の怖さというのも教えていけないといけないという現実がある。実は自分の小学校でも2月14日に授業参観があるが、5年生、6年生、それから保護者を集めて、授業の一環として、こども未来課から職員を呼んで専門的に、利便さももちろん、怖さも教えてもらおう。学校としては教育委員会や、市役所の方を活用させてもらって、子どもの力を付けてもらい、親の啓発をさせてもらっているというのが現状である。

## 【 会長 】

小学校で何ができるのかというところで、多様化というのが非常に重要だろう。教員を養成している学校でも、情報教育は今、後手に回っており、情報教育の教員が足りず、緊急事態となっている。しかし、文科省はそれにあまり協力的でないということもあり、なかなかここに書かれているような状況での現場の移り変わりへの対応が難しい。保育士の養成も同じである。そういう意味では縦にスツとものが流れていくわけではなく、どこかで滞ってしまう。そういうところを突き詰めながら、解決に向けていかないとなかなかプランは進まない。進捗状況を踏まえて、議論していく必要があるだろうなと感じる。

## 【 委員 】

プロジェクト01のNo. 5「多様な子供に対する多様な学びの場の提供」と、プロジェクト02のNo. 1「乳幼児期における質の高い保育の提供」がそれぞれ掲げられている。質の高い保育や、保育士の不足というのもあるが、それとは別の観点で、保育の内容、質というものがこの場でも委員から出されている。そしてその中で、安心して健やかな成長を支えていただける、そういうふうな保護者とまた園、地域が合わさって、その中にあるからこそまたプロジェクト01のNo. 5のいじめ、不登校、すべてがつながっていくことかなと思う。不登校・登校と言う前に、保育園・幼稚園の社会の中で子どもたちが安心して生活ができ、また保育・教育を受けることができる。その土台があるからこそ、家庭の力があるからこそ、また小学校に上がってからの様々な課題に向かうことができるのではないかなと思う。でも、現状では、一番スタートの所から厳しいかなと思う。現場の中で働いている先生方は大変かなと思うが、これからの日本、世界を背負っていく子どもたちの、体も、何より心を育てていただくために、子どもたちを見ていただけるとありがたい。それぞれに取り組みが立っているが、ずっとつながっていくことだと思っているのでお願いしたい。

また、質の高い芸術文化に触れるとか、交流の場づくりとか、書いてあり、「市内の保育園、幼稚園、こども園に通う全て」と、「通う」となっているが、四日市市内でも全員がこの中に当てはまっている子ばかりではないと思う。乳幼児健診でもそうだが、わずかではあっても、こういう網から漏れている子どもは、四日市市内でも確実にいる。その子たちが義務教育として小学校のステージに上がった時に、また課題が見えてくると思う。行政の方たちも、また保育園・幼稚園・小学校・中学校の現場で子どもたちに向き合っていていただいている方も大変かなと思うが、一緒に地域もさせていただきたいと思うので、なかなか手が添えられない家庭、子どもたちへの支援の仕方というものもお願いしたい。



## 【 委員 】

1つは今、子どもに関して命に関わる問題が大きい。虐待もそうだし、いじめ、不登校もそう。三重県は不登校が非常に多い。総合計画に挙げているのは良いが、「多様な子どもに対する多様な学びの場の提供」だけでいいのだろうか。多様な子どもに対するサポート体制をいかに充実するかが大事であって、学ぶ場を提供するだけでは解決しない。その辺りは命に関わるのもう少し根幹に迫っていただきたいと思う。私も言うだけでなく民間から携わるし、行政だけではできないので、ぜひ地域との連携を考えていただきたい。

もう1つは、幼児教育の根幹に関わる場所なのでお伝えしておきたいが、子ども自身が持つ「自ら成長する力」を発揮する、ということが幼・小、大事なこととして挙げてある。運動遊びや身体づくりも挙げている。ただ、アスリートが小学校を訪問する話が出ていたが、運動能力も子どもによって様々である。アスリートが来ることと、子どもが自ら学ぶ・自ら成長することとは、矛盾する問題である。子ども自ら持っている力を生み出すよう、遊びで幼児期の子どもそれぞれの運動能力を伸ばしたのに、小学校に行ってなぜアスリートが出てくるのか。小学校でも「遊び」であり、遊びから運動能力を上げ、技術・スキルを上げていくというふうにしていかないといけないので、運動能力をどう伸ばすか考えていただきたい。

## 【 事務局 】

先に説明したように、推進計画というのがあって、今度の2月の中旬から始まる議会で、ここに書いてある事業すべてではないが、予算要求をしていきたいと考えている。今日いただいた意見を頭に入れながら説明をさせていただき、この総合計画に書いてあるだけということにならないようしっかり取り組んでいきたい。

以上